

# Double-Take®

## 導入事例：株式会社マツヤスーパー 様

### 「災害も障害も100%起きる」その時、店の業務は？

株式会社マツヤスーパー様は、本部の基幹業務サーバのデータを、WAN経由により30km先の店舗で常時複製バックアップ。万一の災害やシステム障害の際には、素早く支店のサーバに切り替えて全店の発注業務等をそのまま継続するビジネスコンティニュイティ(事業継続性)を確立しました。

#### 株式会社マツヤスーパー 様

本 部：〒607-8306 京都市山科区西野山中鳥井町63

店 舗：6店舗

設 立：1961年(昭和36年)8月14日

社員数：正社員・パート・アルバイト含め 606名  
(2006年6月現在)



株式会社マツヤスーパー 管理部 部長 中尾輝三氏



#### 導入背景

##### 問題は、頼りにならないバックアップ！

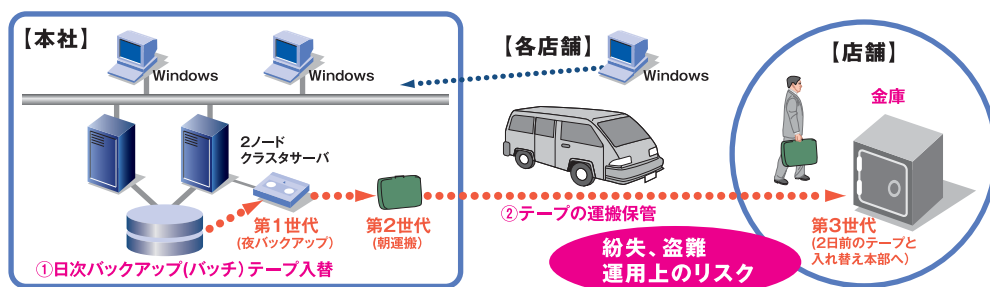
株式会社マツヤスーパーは、京都を中心に滋賀県まで6店舗を展開する中堅の生鮮食品スーパー。地元のお客様の生活に深く密着しているうえ、取引先にとって欠かせないパートナーとなっている。それだけに、万一業務を寸断する事態が生じた場合には影響は計り知れない。各店舗業務の生命線を握っているのは、本部の基幹業務システムである。だが、頼りにしていたはずのテープバックアップとは格闘の連続だった。全社のリスク管理の責務も担う中尾輝三氏には、問題点は明確に見えていた。

##### いかに全店の業務を続けるか！継続がすべて

「実は、今までにバックアップ用のテープ装置で、基幹系データが復旧できた経験はありません」と断言する中尾氏。これで安心と思ったテープデータが、古い世代のデータであったり、必要なデータが欠けていたり、不信は拭えなかった。また、どんなに精度の高い最新データが手元にあっても、本部が100年・200年に一度の大災害に見舞われたなら意味がないとも言う。基幹サーバは止まっても、ビジネスは止めない。事業の継続性に向けたプロジェクトが動き出した。

#### ■従来の基幹業務システム・バックアップポリシー

- ① クラスタサーバのデータを内蔵テープ装置にバックアップ。② そのテープを近隣店舗に運搬し金庫に保管。



## お客様ニーズ

### 直前データを元に遠隔地で業務代行

基幹業務が数日止まってしまったら、もはやFAXや電話などの手作業で対応できる時代ではない。特に根幹となる発注業務は、情報の鮮度が求められる。いかに障害直前までのデータをバックアップするか。その新鮮なデータを元にいかに業務を継続するかが、今回お客様が求めたすべてであった。「だが、我々は大手スーパーとは違う。高額な投資と時間と労力を湯水のように使うわけにはいかない。その点、三谷商事の柴田さんが

勧めてくれたDouble-Takeの提案は、正直信じられなかった！」と語る中尾氏(前出)。それは、基幹業務を素早く切り替え、遠隔地で代行するという理想的な提案だったからだ。

三谷商事株式会社 情報ソリューション事業部  
関西支店 産業営業課 係長 柴田利明氏



## ソリューション

### 今の業務を止めずに、今のシステムを変えずに導入

「あの苦労した基幹のOracleデータが本当に戻った！」そう驚かれた中尾氏。昨年8月、本部内において行われた切り替えテストでの第一声だった。基幹システムを停止すると、用意したバックアップサーバにフェイルオーバーされ、素早く切り替わったからだ。クラスタシステムによって事業の継続性を実現するには、既存のシステム的大幅な手直しが避けられない。

だが、本提案ではDouble-Takeとバックアップサーバを追加するだけで、シンプルに実現できる。実際には光回線のWANを経由し、30Km先の退避サイト店舗に基幹データは転送される。万一、本部のサーバ障害によるフェイルオーバー時には、各支店で障害を確認のうえワンクリックで切り替えて業務を継続できるシステムに工夫されている。

## 導入プロセスと展望

### 稼働10ヶ月、次は年1回の避難訓練へ!

Double-Takeの導入過程では、本部の基幹サーバのOSやデータベースのバージョン変更および改造、再インストールなどはまったく不要であった。バックアップサーバとの通信回線も既存のNTT西日本のBフレッツ回線をそのまま利用。搬入前に、1日のデータ処理量や送信環境に合わせ最適にセットアップ。システム納品時の作業は既設のサーバにDouble-Takeをインストールし再起動しただけである。「もちろん、うちに持って来られる前にはいろいろ仕込みはあったでしょうが、三谷

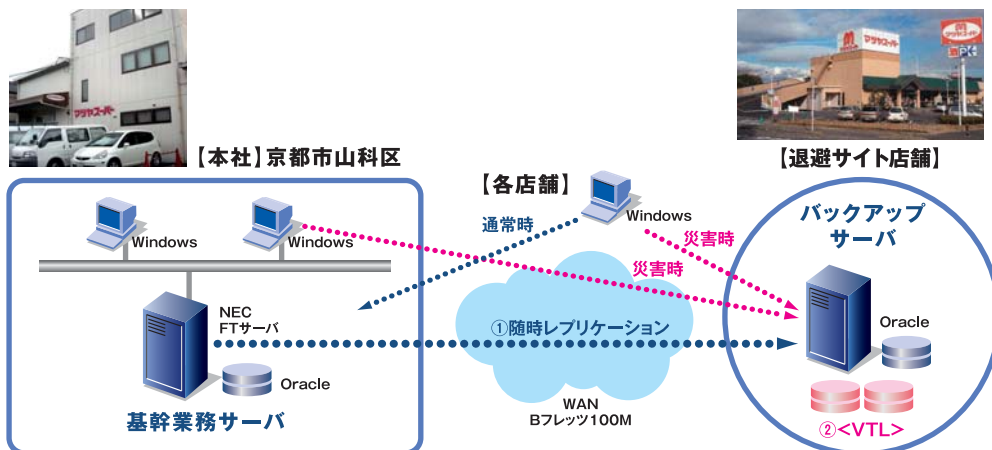
商事さんは他にも実績があったので安心でした」と中尾氏。必要最小限の投資で、短期間に災害対策と事業の継続性を両立することに成功した。今後は年1回定期的に、災害やサーバ障害を想定した“避難訓練”を実施し、システムの切り替え確認を行う予定だ。

株式会社マツヤスーパー  
管理部 部長 中尾輝三氏



#### ■現在の基幹業務の遠隔地代行システム

- ①基幹サーバのデータは既存のWAN経由で退避サイト店舗のバックアップサーバに転送。
- ②仮想テーブライブラリ(VTL)技術によってHDD内に保存。



古紙配合率100%再生紙を使用しています R100 環境にやさしい大豆インクを使用しています SOYINK  
※本カタログに記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。(2006.7)

●お問い合わせは

伊藤忠テクノサイエンスグループ  
**CTC SP**  
CTC エスピー株式会社

本 社：〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-16-7  
TEL.03-3419-9672 FAX.03-3419-9679  
http://www.ctc-g.co.jp/ctcsp/  
sp-admin@ctc-g.co.jp

・ 鹿が岡：TEL.03-6203-5535  
・ 名古屋：TEL.052-203-2239  
・ 大 阪：TEL.06-6151-8860  
・ 福 岡：TEL.092-734-6251

国内販売代理店

開発・製造元

Double-Take  
Software